北陸石仏の会々報

第74号
令和7年1月15日発行
編集と発行
北陸石仏の会
（日本石仏協会北陸支部）
代表　平井一雄
〒939-1315
富山県砺波市太田
1770　尾田武雄方
電話 0763-32-2772
振替 00740-2-11974
（年会費 3000 円）
ホームページ
http://odatakeo.wp.xdomain.jp/

・蚕神と如意輪観音
・金沢型狛犬
・加賀逆立ち狛犬
・第67回例会報告

富山市直坂の蚕神と如意輪観音

平井　一雄

1、富山市直坂の蚕神

富山県富山市笹津から猿倉山へ上る坂の途中で二松へ行く旧道（廃道）の分かれ道に「蚕神」の石像がある。繭玉が下方に散らばり、右手で桑の木をかつぎ、左手に蚕の種紙を持った女の神様が彫ってある。頭は、蚕の形に似せてある。とても美しい女神像です。昔、この辺り一帯に桑畑があり、かつては郡内一の繭の生産量を誇っていました。蚕種は八尾から入り、出来た繭は八尾の集荷人がとりに来る。この辺りは八尾が繭の集散地でした。大正年代、この地に住んでいて桑を作っていた杉本家の屋敷神と思われます。

この像に似た絵像が富山の売薬さんが配置先に配った売薬版画があります。

銘文

「衣襲明神之像（きぬがさみょうじんの像）」

「此尊像ハ桑蚕ノ祖神ニ而常陸國鹿島郡日向川村蚕霊山ニ立セ給衣襲明神即是也」

「サレハ此御神ヲ祭ル者ハ桑ヨク栄テ如意万倍ノ」

「利得有事ウタガイナシ」

2、如意輪観音道標

「蚕神」祠堂の左側にあるコンクリート祠堂の石仏は「如意輪観音」でる。右手は頬に当てて思惟する像容が多い。法蔵菩薩のような五劫思惟のお姿であるが転法輪（如意輪）を持つので如意輪観音と呼ばれている。頬に手を当てているのは如何にも歯が痛むので手で抑えているようなので「歯痛」平癒を祈る民間信仰が各地の如意輪観音石仏にある。幼少期にこの辺に住んでいた仲間は「歯が痛い時、塩を誰にも見られないように撒いてから拝んで、後ろを見ないようにして帰るものだ」と親から聞いていたという。

この石仏には銘文が刻まれている。

右より「右ハふなくらみち」

「山立山道　南高山左ハ笹津道」

欠落部分もあるがこのように読んでみた。

向かって左に「文化四卯年十月十一日」と刻んである

文化四年銘の立山道標はここだけである。牛ケ増「ふかたにノ湯」道標に続く貴重な立山参詣の道しるべである。

富山市直坂　右「蚕神」　　左「如意輪観音道標」

蚕神　古祠堂 昭和 40 年代

吉達記
基なる云弥
国利民福を催すの
蚕繭育成して
ハ桑葉繁茂して
して祀るもの
拝せし神に
養蚕家の崇
にて古昔より
像ハ衣襲明神
傳ひ曰く此尊

売薬版画　蔵本家蔵

蚕神

如意輪観音　道標

道ゝの神はん　昭和 47 年スケッチ

富山県内にある金沢型狛犬

尾田　武雄

富山県砺波地方の狛犬の調査は石仏調査に比べ、案外調査がされていなかった。石仏研究者は石仏の他、石神、石塔、手水鉢、石鳥居、狛犬なども研究対象にされてきたが、狛犬だけにこだわり調査研究している人は案外少ない。それは神社境内にあるが、あまりにも単調なスタイルのものが多く、興味がもたれなかったからであろう。

ところが、よく観察すると地域性があり石材の違いや、石工の遊び心での作品を目にすると興味がそそられる。特に金沢型狛犬といわれる逆立をした狛犬には驚かされる。石造美術研究家京田良志先生がおどけた狛犬と紹介されたのが高岡市福岡町小野の八幡宮にいる狛犬である。「おどけて逆立ちしている狛犬」と紹介されている。台座には「明治三十四年　福嶋伊之助」とある。他には南砺市広安平田神社には、狛犬に銘「大正二年　石工福嶋伊之助」とあり、金沢逆立ち狛犬がある。この狛犬の石材は石川県小松から採掘される凝灰岩滝が原石と思われる。このようなアクロバット型で逆立する狛犬は、金沢市、野々市市、白山市に見受けられ、滝本やすし北陸石仏の会副会長（金沢市）によると石川県内には約一二〇対があるとされている。明治中期から昭和初期にかけて期間、地域限定に彫られたもので、富山県内にあるのは珍しい。石工福嶋伊之助は金沢逆立ち狛犬を得意とした名工と知られていた。

氷見市早借の葉や菓子八幡宮には台座に「明治三十六年九月建之」とあり、氷見市園の園生神社に台座に「上野菊蔵」と刻字がある。富山市八尾町高熊の八坂社には台座に「石川縣金澤市五寶町　石工　近松松エ平刻」「明治三十四年八月」「世話人　本多與七郎　布■又三郎　田中又五郎　高木治郎三郎」とある。

まだまだ県内の神社にひっそりと居るのかもしれない。今後の調査に期待したい。またこの稿に際し、滝本やすし氏、酒井靖春氏にご教示を得た。

1	南砺市広安	平田神社	「石工福島伊之助」「大正二年」
2	高岡市福岡小野	八幡宮	「石工福島伊之助」「明治三十四年」
3	氷見市早借	早借八幡宮	「明治三十六年九月建之」
4	氷見市園	園生神社	「上野菊松」
5	富山市八尾町高熊	八坂社	「石川縣金澤市五寶町　石工　近松松エ平刻」「明治三十四年八月」「世話人　本多與七郎　布■又三郎　田中又五郎　高木治郎三郎」

③氷見市早借
早借八幡宮

④氷見市園
園生神社

②高岡市福岡町小野　八幡宮

①南砺市広安　平田神社

⑤富山市八尾町高熊　八坂社

加賀逆立ち狛犬

滝本 やすし

加賀逆立ち狛犬は金沢逆さ狛犬とも称され、加賀地方北部を中心に石川県内に数多く確認される。ほとんどは神社の参道に設置されているが、参道から外れているものや、拝殿内に置かれているものもみられる。希であるが、寺院の参道などにも作例が確認される。精査していないので実数を確定できないが、暫定数として参道狛犬が百十九対、その他に特例がいくつかみられる。

逆立ち型の参道狛犬は全て石造で、そのほとんどが凝灰岩であるが、安山岩や花崗岩のものもみられる。参道左側が阿形で右側の吽形のみが後ろ足を上げているものが一般的であるが、その逆のものや、二体共に後ろ足を上げている作例もみられる。石工の多くは金沢や松任(現白山市)などの加賀地方北部で、加工されずに搬入された石材を地元で彫っている。逆立ち狛犬の大多数を占めるのは淡青色凝灰岩であるが、福井県福井市の笏谷石や石川県小松市の滝ケ原石などが混在しているようである。逆立ち狛犬が多く作られた明治時代後半から昭和戦前にかけては、滝ケ原では十ケ所以上の石切丁場が稼働し量産されていた。笏谷石も滝ケ原石も、加工されていない石材のまま北加賀方面へ送られていた。良質な滝ケ原石は見た目だけでは笏谷石との区別ができないほどであることから、高価な笏谷石から安価な滝ケ原石へと切り替わった時期である。したがって個別の狛犬に関しては、石材の産地を特定できないものが多い。個別に組成分析や帯磁率測定などを行えば、高い確率で石材の産地を判別できるであろう。

逆立ち狛犬の在銘最古の作例は、金沢市天神町の椿原神社のもので、金沢市山間部で産出される赤戸室石(安山岩)製で、台座に「安政六己未年／八月吉日／石工／松田七左エ門」の銘が刻まれている。なおこの狛犬は令和六年元日の能登半島地震によって台座が崩壊し、参道左側の吽形が転落、後ろ足を上げている右側の阿形も傾き転落しそうである。

金沢市天神町１丁目
椿原神社
安政６年
石工　松田七左エ門

七尾市小島町
曹洞宗龍門寺

金沢市本多町３丁目
石浦神社
明治２４年
石工　福嶋伊之助

野々市市矢作１丁目
藤岡諏訪神社
平成２６年建て替え

金沢市袋板屋町
八幡板屋神社
昭和３３年

野々市市清金１丁目
中宮神社
大正４年
石匠　相森(幹太郎)

第67回例会報告　滑川市の石仏巡り①

川端　典子

十月二十日(日)第67回例会「滑川市の石仏めぐり」が開催された。石川・富山から集まった総勢十二名は、晴天に恵まれて富山県滑川市の石仏めぐりを楽しんだ。ここでは印象に残った石仏を中心に簡単に報告したい。

〔コース〕①東金屋「マンドウ様」→②道寺「ミズカミ様」→③柳原「不動明王」他→④曹洞宗柳原寺「四国八十八カ所霊場石仏」他→⑤柳原櫟原神社「道祖神」他→⑥曹洞宗徳城寺「金剛経宝塔」他→昼食→⑦神明町櫟原神社「越前狛犬」他→⑧坪川「一里塚」他→⑨笠木「不動明王」他→⑩追分「六地蔵」他⑪四ツ屋「三宝荒神」他……○数字の後は所在地名

朝八時二十分、滑川市立博物館に集合し、三台の乗用車に乗り合わせて出発。まずは博物館からほど近い①東金屋の八幡神社境内のマンドウ様を見学した。滑川市では『滑川の民俗 下』に十三体のマンドウ様が報告されており、こちらもその中の一つということだ。白く綺麗な石材に紺～水色の彩色がなされている。尾田氏と滝本氏から雨宝童子や水天について丁寧にご説明頂いたが、彩色からも水との関わりを感じることができ、柔和な表情がとても印象的な石仏だった。続いて柳原地区へ移動中に巨石「ミズカミ様」に立ち寄った。石には嘉永六年と刻まれており、このような巨石を百七十年以上も田畑の一角に安置している日本人の心に思いを馳せた。続いて③では立派な木造の堂内にある不動明王三体と地蔵を見学した。ひときわ大きな不動明王は高さ134㎝もあり、鮮やかに赤彩されている。大岩不動を模したとされるが、そちらよりやや可愛らしく見えてしまった。

その後④で百体以上の石仏を見学、⑤、⑥を見学後に道の駅で昼食をとった。午後は⑦笏谷石製の狛犬と国登録有形文化財の鳥居を見学、⑧に移動した。現在富山県内の一里塚はここを含めて四カ所だけで、貴重な場所と言える。この一里塚（南北）には様々な石造物があり、自身が強い関心を持つ青面金剛もみられた。富山東部朝日町周辺の像容との違いが感じられて興味深かった。

次に⑨、⑩、⑪と見学したが、⑪について書いておきたい。ここにはコンクリートの小堂と木造の堂がある。小堂には石造の作例が少ないという三宝荒神があった。初見である。木造の堂には十体ほどの石仏が納められていたが、それぞれ別の場所由来と考えられる。中に①でも見たマンドウ様の丸彫りの像があったが、滑川市でマンドウ様としてこれまで報告されていないということで、それぞれの石仏の来歴が気になった。

以上、簡単な報告となるが、今回の例会ではマンドウ様について興味が膨らんだので、今後も気を付けて見てみたい。秋晴れの中、各地から集まったメンバーと共に多くの石仏をめぐることができ、充実した例会となった。

第67回例会報告　滑川市の石仏巡り②

尾田　武雄

十月二十日に北陸石仏の会第67回例会滑川の石仏めぐりが開かれた。滝本やすし北陸石仏の会副会長の案内で市内の珍しい石仏にお会いできた。東金屋の八幡神社境内のマンドウ様には、初対面で驚いた。向背に蛇四匹がおり宝棒を持ち宝冠をかぶっている。水の神さまのイメージできる。雨宝童子の変形かとも思える。四ツ屋の雨宝童子も珍しい。曹洞宗徳成寺の石仏群、同宗柳原寺の四国八十八ヵ所霊場石仏もきれいなお姿で待っておられた。一里塚の法華塔、青面金剛、名号塔などを拝見し、笠木の大岩不動の五体揃った摸刻像、兵隊地蔵など多くを拝見できた。

今回もまた、滝本氏の丁寧な資料作成、一貫してご案内いただき感謝申し上げたい。また新しい会員も増え、当会のますます発展することを願っています。

①東金屋のマンドウ様

⑦神明町櫟原神社にて記念撮影

⑧坪川一里塚の石塔群

④柳原寺の四国八十八ヶ所霊場石仏群

⑪四ツ屋のマンドウ様

⑨笠木の兵隊地蔵を見学

令和７年度の会費を同封の振替用紙にて納めてください。年会費は３０００円です。